令和６年度　杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	４４	学校名	仙台市立八本松小学校	校長名	吉田　正太朗

１　取組のタイトル，テーマ

広瀬川およびその河川敷を利用した学習

２　取組の紹介

本校は広瀬川の河川敷に隣接しています。校歌にも「山ははるかに　川はまぐり」と歌われており，河川敷・広瀬川・そのから見える山々の風景は八本松小学校のアイデンティティとなっています。

そこで本校では，川・川原を生かした学習を継続的に実施しています。１・２年生は１学期の校外学習で川付近を歩き，水辺の自然に関心を持ちます。また，３・４年生は総合的な学習の時間の一環としてそれぞれにテーマを持って自然の観察・調査を行っています。３年生は河川敷に住む虫や植物の様子を定期的に観察し，ロイロノートなどでまとめることでその変化に気づくことができました。また，持久走会では河原の周辺を走ります。同じ場所を毎年走ることで，その変化や光景に愛着を持つようになることを期待しています。

３　取組の成果（児童生徒の変容）

子どもたちは川を楽しい場所と認識しており，そこにいる虫や魚の名前が多く児童の口から出ます。図画工作などの題材で，広瀬川やそこに住む生物について表現する児童が多くいます。また，特別支援学級（ひまわり学級）では，川原の風景を題材にしたジオラマづくりに取り組むなど（写真），川原を身近に感じ，愛着を持った子どもたちが育っています。本校は都心部にあり，アパートやマンションに住む児童が大半ですが，草遊びや虫の採集・飼育などを好む児童が多く，進んで学校で飼育を始める児童もいます。広瀬川・河川敷の景観を意識的に毎日眺めているため，紅葉や落葉など，自然の変化にはすぐに気付きます。このような子どもが多い点は，広瀬川・河川敷を利用した学習の成果であると考えています。

また，天候の変化を川の様子から察する児童もおり，「川が濁っている。上流では雨だったのかな。」というように科学的な見方・考え方に沿って広瀬川を見る子どももいます。広瀬川での学習がスタートして，児童らの興味・関心が引き出されていることがわかります。

明確なデータとしてあらわすことは困難ですが，児童らが川の学習を起点にして，その興味や意欲を様々な教科に広げていることは現場で働く教職員にとっては明らかです。今後もまた同様の学習を継続していく予定です。